

B02 班主催 一般公開セミナー

日時：2011年1月19日（水）17:30～20:00

会場：国立科学博物館新宿分館資料館1F会議室

出席者：米田穰（研究代表者）、阿部彩子（研究分担者）、Masa Kageyama（海外研究協力者）、Mark Diab（研究協力者）、Wing-Le Chan（研究協力者）、西秋良宏（A01班研究代表者）

外部参加者約35名

演題：

(1) "Modeling climate impacts on the environment of the last Neanderthals during the last glacial period: some results from the collaborations between climatologists from LSCE and archeologists from PACEA and University of Montreal" Masa Kageyama (Laboratoire des Sciences du Climat et de l'Environnement LSCE/IPSL - CEA-CNRS-UVSQ, France) 通訳：近藤康久

(2) 「古気候変動と人類の進化：シミュレーション実験の到達点」阿部彩子（東京大学大気海洋研究所・准教授）

講演要旨：

(1) "Modeling climate impacts on the environment of the last Neanderthals during the last glacial period: some results from the collaborations between climatologists from LSCE and archeologists from PACEA and University of Montreal" Masa Kageyama

広く日本の考古学者を対象として、この10年ほどの間にフランスとカナダで実施してきた、古気候シミュレーションと考古学との共同研究について、自身の経験を踏まえて紹介された。ネアンデルタールとクロマニオンの交替劇については、GAAP（遺伝的アルゴリズム）を用いた生態・文化ニッチモデルの応用について紹介があった。基本的に全球モデルを使用するため、研究対象とする地域の解像度を上げる必要があるが、気候モデル研究ではそれが非常に挑戦的であることが指摘された。

(2) 「古気候変動と人類の進化：シミュレーション実験の到達点」阿部彩子

気候シミュレーションがどのような原理によって行われているかにつて、ミランコビッチサイクルから、現在の大気・海洋・氷床結合モデルまでの紹介があった。我が国における考古学への応用はほとんど行われていないが、現状では植生を正確に復元するための手法も開発しており、気候変動と人間活動の関係について、より具体的な因果関係を議論することが可能であることが紹介された。さらに新学術「交替劇」B02班の研究目的と計画を紹介した、今後より幅広い議論を出席した地考古学関係者に依頼した。